

## 院長のひとりごと2

### テーマ「パートナーシップ」

今日のテーマはパートナーシップです。病院には様々な職種の職員がいます。当院も六月の十周年を前に、職員数六百八十名を数えるに至りました。開院時が二百八十名ですから、すごい増加ですね。

病院の経営のために医師、看護師が必要ですが、うまく運営するために事務、リハビリ、薬剤師、検査技師が必要です。ではその色々な職種の連携をいかにやるのかによって患者さんの満足度は全く違ったものになります。

これを称して「パートナーシップ」と呼んでいます。ある病院では馬鹿な医師が看護師を叱り飛ばして、心ない言葉を発しています。

当院では「良きパートナーシップ」を実践するために、各職員の立場を公平にし、同じ土俵で「患者さん中心」に物事を考えることと決めています。例えば、看護師の求めに応じて医師は夜中でも電話の応対は丁寧な、さらに明日でもいいような内容の問い合わせだとしても「電話ありがとうございます。Thank you for your calling !」と答えるようにと、医師を指導しています。深夜営業の牛井屋さんに行ったら、従業員さんがありがとうございますと言う位の感謝を述べなさいという意味です。

実際にはたくさんさんの局面がありますが、すべてこのような気持ち、態度で接すれば相手は心許すだけでなく、凄く喜びます。相手の仕事に対する思いやり、尊敬は大きな職員の輪となり、そこで入院期間を過ごされる患者さんはすごく幸せになります。つまり、「良きパートナーシップ」は「患者さんのため」の医療となりうるのです。

いつの間にか、毎月五百四十件の救急車搬入件数となり、県どころか、国内でも有数の件数となりました。この時だからこそ「良きパートナーシップ」を実践しましょう。

平成二十五年二月十二日 藤井茂

第六章

